

総 説

日本産魚類に寄生するツツウオジラミ科, エラノミ科 (新称) Hatschekiidae およびニセエラノミ科 (新称) Pseudohatschekiidae カイアシ類の目録 (1916-2012年)

長澤和也¹⁾・上野大輔²⁾

¹⁾ 広島大学大学院生物圏科学研究科, 〒739-8528 広島県東広島市鏡山1-4-4

²⁾ 琉球大学理学部, 〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1

要 旨 1916-2012年に出版された文献に基づき, 日本産魚類から記録されたツツウオジラミ科 *Dichelesthiidae* (1属1種), エラノミ科 (新称) *Hatschekiidae* (4属44種・未同定1属1種) およびニセエラノミ科 (新称) *Pseudohatschekiidae* (1属1種) に属するカイアシ類に関する情報 (異名リスト, 宿主, 寄生部位, 地理的分布, 文献) を種ごとに整理した。 *Congericola*, *Hatschekia*, *Prohatschekia*, *Pseudocongericola*, *Pseudohatschekia* の各属に対して, アナゴノエラノミ, エラノミ, アシユラエラノミ, ハモノエラノミ, ニセエラノミの新標準名を提唱した。和名をもたない種に対して新標準名を提唱するとともに, 和名を有する種に対して必要に応じて改称を提案した。今後は, 南西諸島海域における魚類や水産上重要でない魚類を検査することにより, 特にエラノミ科の分類学的研究を行う必要がある。また, ツツウオジラミ科, エラノミ科, ニセエラノミ科ともに生態学的知見を収集する必要がある。

キーワード: エラノミ科, カイアシ類, 魚類寄生虫, ツツウオジラミ科, ニセエラノミ科, 目録

諸 言

本目録で扱う3科はカイアシ亜綱 Copepoda の管口目 Siphonostomatoida に属する甲殻類である。ツツウオジラミ科 *Dichelesthiidae* とニセエラノミ科 (新称) *Pseudohatschekiidae* はそれぞれ1種のみを含む小さな科であるが, エラノミ科 (新称) *Hatschekiidae* は2004年までに世界から105種が記載され, 魚類に寄生するカイアシ類のなかではウオジラミ科 *Caligidae* (465種以上) やナガクビムシ科 *Lernaeopodidae* (268種) などともに大きな科である (Boxshall and Halsey, 2004)。ツツウオジラミ科, ニセエラノミ科, エラノミ科ともに海産である。ツツウオジラミ科は板鰓類の口腔壁や歯間に寄生するほか, まれに硬骨魚類にも寄生する。エラノミ科とニセエラノミ科は例外なく硬骨魚類の鰓に寄生する。後二者ともに, わが国で報告された宿主にはアナゴ科やフササカゴ科, アマダイ科, アジ科, タイ科など水産上重要な魚類が含まれている。

これら3科に含まれるカイアシ類各種は, かつて *Dichelesthioidae* 上科の2科 (ツツウオジラミ科と新科の *Anthosomatidae* 科) に属していた (Yamaguti, 1963)。しかし, それらの分類学的位置を19世紀の文献にまで遡って詳細に検討した Kabata (1979) はツツウオジラミ科を再定義するとともに, *Anthosomatidae* 科を有効な科と認めず, エラノミ科を創設した。また最近, Tang *et al.* (2010) は, 従来ツツウオジラミ科に含まれていたニセエラノミ (新称) *Pseudohatschekia branchiostegi* を再記載する際, その形態の特異性に基づきニセエラノミ科を創設した。本目録でツツウオジラミ科, エラノミ科, ニセエラノミ科の3科を同時に扱うのは, このような歴史的背景があるためである。加えて記せば, 先に長澤・上野 (2011) によって日本産種の目録が作成されたヒトガタムシ科 *Lernanthropidae* は, *Anthosomatidae* 科に含まれていた5属をもとに

Kabata (1979) によって創設されたものであり、本目録でツツウオジラミ科に含まれているハナガタムシ *Anthosoma crassum* はこの科に含まれていた (Yamaguti, 1963)。ただし、上述したように、この科は Kabata (1979) によって無効な科とされ、今日に至っている。また上述のように、この科は Yamaguti (1963) によって新しく設けられたものであるが、彼はかなり以前にこの科名をすでに用いた (例えば Yamaguti, 1936)。一方、ハナガタムシを含む科には Anthosomidae という科名が他の研究者によって使われ (例えば Wilson, 1932; Shiino, 1955, 1957a)、その和名にハナガタムシ科が提唱された (岡田, 1972)。このようにヒトガタムシ科、ツツウオジラミ科、エラノミ科、さらに近年は無効とされているハナガタムシ科の分類学上の扱いは、歴史的な経緯があって複雑であるが、現在私たちが用いている分類体系は Kabata (1979) によって確立されたと言ってよい。

本目録は、日本産ツツウオジラミ科、エラノミ科、ニセエラノミ科の6属47種 (それぞれ1属1種; 4属44種・未同定1種; 1属1種) について、1916-2012年の97年間に出版された文献をもとに、各種の情報を整理したものである。1916年は石井重美によってツツウオジラミ科のハナガタムシがわが国で最初に報告された年である (石井, 1916)。また、上記3科に含まれる各種の1960年代初めまでの情報は山口左伸がモノグラフのなかで示した (Yamaguti, 1963)。さらに、1985年に J. B. Jones がエラノミ属 (新称) *Hatschekia* の再検討を行った際、この属に含まれる日本既知種の情報を示した (Jones, 1985)。しかしその後、上記したように Kabata (1979) による科レベルでの大きな分類学的再検討が行われ、近年、筆者らによるエラノミ科とニセエラノミ科に関する研究が進み、多くの新知見が蓄積された (Uyeno and Nagasawa, 2009a, 2009b, 2010a, 2010b, 2010c, 2012; Tang *et al.*, 2010)。本目録は、そうした最新情報も踏まえて、わが国におけるツツウオジラミ科、ニセエラノミ科、エラノミ科3科に関する知見をまとめたものである。

本目録では、各科において、各属をアルファベット順に並べた後、各属では種小名のアルファベット順に各種を記述した。標準和名と最新の学名をまず記し、異名リストと宿主、寄生部位を示したあと、地理的分布を示した。異名リストに示した学名はわが国で用いられたものに限り、これを欠くものは異名での報告がわが国にないことを示す。各異名の直後には、それらを報告した著者名と出版年を示した。宿主である魚類は、中坊 (2000) が示した分類体系に従って配列し、標準和名と学名を記した。この際、過去の論文で現在の和名と学名と異なるものが使われた場合には括弧内にそれを記した。近年に種の記載が行われたなどの理由により、中坊 (2000) に掲載されていない魚類が宿主として報告された場合には、各寄生虫の備考でそうした魚類の学名などの説明を行った。地理的分布に関する情報は海域 (北太平洋, 日本海, 瀬戸内海, 東シナ海) ごとに整理し、都道府県名を含む詳細な採集地と出典情報 (著者名と出版年) を示した。都道府県名は北から南に順に配列した。原典に詳細な採集地の情報を欠く場合には「-」で示した。備考では、新標準和名や改称の提案根拠や当該種に関する情報などを記した。なお、国際動物命名規約第4版 (動物命名国際審議会, 2000) に従って異名リスト、新参異名、種小名などの用語を本目録で用いた。

各寄生虫の記録を上記のようにまとめたあと、さらに宿主-寄生虫リストとして整理した。このリストでは、宿主として報告された魚類を中坊 (2000) に示された分類体系に従って並べ、各魚種から記録されたカイアシ類を示した。各科において宿主魚類は五十音順に並べた。

上述したように、ツツウオジラミ科とエラノミ科の分類体系に関しては Yamaguti (1963) と Kabata (1979) によるモノグラフが参考になる。エラノミ科に限れば Jones (1985) の論文が有用である。本目録で扱ったカイアシ類のなかには中国や韓国にも分布する種があり、それぞれ Song and Kuang (1980) と Kim (1998) が情報をまとめている。インドとオーストラリアにおける情報は Pillai (1985) と Kabata (1991) から得ることができる。なお、本目録は筆者らによる日本産寄生性カイアシ類目録の第5報である (長澤ら, 2007 [エラジラミ科], 2010 [ウオジラミ属]; Nagasawa, 2011 [瀬戸内海産寄生性カイアシ類]; 長澤・上野, 2011 [ヒトガタムシ科])。

日本産ツツウオジラミ科, エラノミ科およびニセエラノミ科カイアシ類の目録

カイアシ亜綱

Subclass **Copepoda** Milne Edwards, 1830

新カイアシ下綱

Infraclass **Necopepoda** Huys and Boxshall, 1991

管口目 (シフォノストム目)

Order **Siphonostomatoida** Burmeister, 1835

Siphonostomatoida を管口目 (シフォノストム目) と記述する経緯は長澤ら (2010) を参照されたい。本目はウオジラミ亜目 (文部省・日本動物学会, 1988) あるいはシフォノストム目 (ウオジラミ目) (大塚, 1997, 2000; 大塚・駒井, 2008) と呼ばれていた。

ツツウオジラミ科

Family **Dichelethiidae** Milne Edwards, 1840

本科の和名として内田 (1972: 422) がツツウオジラミ科を用いたので本目録でも従う。本科と近縁科に関する分類学的な論議 (Yamaguti, 1963; Kabata, 1979) があったことは本目録の諸言に記した。

ハナガタムシ属

Genus **Anthosoma** Leach, 1816

ハナガタムシ

Anthosoma crassum (Abildgaard, 1794)

宿主：アオザメ *Isurus oxyrinchus* (= *Isuropsis glauca*), ネズミザメ *Lamna ditropis* (= *Isurus nanus*, *Lamna nanus*), ホホジロザメ *Carcharodon carcharias*, ヨシキリザメ *Prionace glauca*, エドアブラザメ *Heptanchias perlo*

寄生部位：口腔壁, 歯間

地理的分布：北太平洋 (宮城県気仙沼沖: Shiino, 1955, 1957a; 北海道榎法華沖: Ho and Kim, 1996; 東京市場: 石井, 1916; 和歌山県勝浦沖: Ho and Nagasawa, 2001), 日本海 (富山県富山湾: Yamaguti, 1936; 富山県富山市水橋沖: 伊澤, 1994), - (飯島, 1918; Wilson, 1932)

備考：わが国のサメ類に寄生する本種の生物学的知見が最近, 長澤 (2012) によって整理された。椎野 (1965) は本種がマンボウにも寄生すると記したが, わが国にはこの魚種からの記録はない。本種は汎世界種であり (Kabata, 1979), 近隣では韓国産ネズミザメから記録がある (Kim, 1998)。本属と本種の標準和名は, それぞれ椎野 (1964: 126) と椎野 (1957, 1965) による。

エラノミ科 (新称)

Family **Hatschekiidae** Kabata, 1979

本科は Kabata (1979) によって創設された科である。本科に含まれる属種は Yamaguti (1963) ではツツウオジラミ科に収められていた。本科の分類に関する歴史的経緯 (本目録の諸言を参照) や内田 (1972: 422) による *Dichelesthiidae* への和名提案を知らないまま、稲葉 (1988: 157) は本科にツツウオジラミ科の和名を用いたが、これは正しくない。新標準和名の由来は、下記のエラノミ属の項を参照されたい。

アナゴノエラノミ属 (新称)

Genus *Congericola* van Beneden, 1854

アナゴノエラノミ (新称)

Congericola congeri (Yamaguti and Yamasu, 1959)

異名リスト: *Metahatschekia congeri* (Yamaguti and Yamasu, 1959)

宿主: マアナゴ *Conger myriaster* (= *Conger conger*)

寄生部位: 鰓

地理的分布: 北太平洋 (愛知県新舞子東京大学水族館: Yamaguti and Yamasu, 1959)

備考: 本属と本種の新標準和名は、本種がアナゴ科魚類の鰓に寄生することに因む。

エラノミ属 (新称)

Genus *Hatschekia* Poche, 1902

新標準和名は、本属に属する種が硬骨魚類の鰓に寄生し、その大きさが昆虫類のノミ (蚤) のように小さいことに因む。椎野 (1965) は、本属の *Hatschekia fusiformis* と近縁属種の *Pseudocongericola chefoonensis* にそれぞれ「つつうおじらみ」と「はものつつうおじらみ」を用いた。この事実に基づけば、彼は *Hatschekia* 属の和名として「つつうおじらみ」を考えていた可能性が高いが、和名の提案は行われなかった。また、本目録の諸言で記したように、ツツウオジラミ科 *Dichelesthiidae* と近縁科の分類は1979年に Kabata によって整理されるまで混乱が続いており、彼は多くの資料に基づいて、ツツウオジラミ科に本属を含めず、本属と近縁属に対してエラノミ科 *Hatschekiidae* を創設した (Kabata, 1979)。このような背景を考慮すると、本属の和名として「つつうおじらみ」を用いることは、現在のツツウオジラミ科とエラノミ科の分類学的な関係から好ましくなく、ここで本属に対して新標準和名を提唱する。

ウミスズメノエラノミ (新称)

Hatschekia bibullae Uyeno and Nagasawa, 2010

宿主: ウミスズメ *Lactoria diaphana*

寄生部位: 鰓

地理的分布: 北太平洋 (高知県黒潮町土佐賀沖: Uyeno and Nagasawa, 2010a)

備考: 新標準和名は、本種がウミスズメの鰓に寄生することに因む。

キハツクノエラノミ (新称)

Hatschekia bifurcata Yamaguti and Yamasu, 1959宿主: キハツク *Diploprion bifasciatum* (= *Diploprion bifasciatum*)

寄生部位: 鰓

地理的分布: 瀬戸内海 (岡山県玉野市渋川: Yamaguti and Yamasu, 1959)

備考: 新標準和名は, 本種がキハツクの鰓に寄生することに因む。

アカアマダイノエラノミ (新称)

Hatschekia branchiostegi Yamaguti, 1939異名リスト: *Hatschekia cylindrica* (Shiino, 1957c)宿主: アカアマダイ *Brachiostegus japonicus*, キュウセン *Halichoeres poecilopterus*

寄生部位: 鰓

地理的分布: 北太平洋 (高知県: Yamaguti, 1939; 三重県伊勢湾: Shiino, 1957c), 日本海 (福井県小浜: Yamaguti, 1939)

備考: 伊勢湾産キュウセンから記載された *H. cylindrica* の標本を観察した Jones (1985) は, この種と本種を分ける理由が見つからないとして両種を同一種とした。また同時に, オマーン湾産ズキ科魚類の *Serranus* 属から報告された *H. ovalis* も本種と同一種である可能性を示唆した。本種は韓国産アカアマダイとキュウセンからも記録がある (Kim, 1998)。新標準和名は, 本種がアカアマダイの鰓に寄生することに因む。

アカタチノエラノミ (新称)

Hatschekia cepolae Yamaguti, 1939宿主: スミツキアカタチ *Cepola schlegeli*, イッテンアカタチ *Acanthocephala limbata*

寄生部位: 鰓

地理的分布: 北太平洋 (-: Yamaguti, 1939), 日本海 (-: Yamaguti, 1939)

備考: 新標準和名は, 本種がアカタチ科魚類の鰓に寄生することに因む。

ハタノエラノミ (新称)

Hatschekia cernae Goggio, 1905宿主: マハタ属の1種 *Epinephelus* sp.

寄生部位: 鰓

地理的分布: 東シナ海 (沖縄県沖縄島那覇: Shiino, 1957b)

備考: 本種の分布域は広く, 地中海や西アフリカ沖からも記録がある (Jones, 1985)。新標準和名は, 本種がハタ科魚類の鰓に寄生することに因む。

リュウキュウエラノミ (新称)

Hatschekia churaumi Uyeno and Nagasawa, 2010宿主：キヘリモンガラ *Pseudobalistes flavimarginatus*

寄生部位：鰓

地理的分布：北太平洋（沖縄県沖縄島石川浜沖：Uyeno and Nagasawa, 2010c）

備考：新標準和名は、本種の模式産地である沖縄県の古称「琉球」に因む。

マナガツオノエラノミ (新称)

Hatschekia conifera Yamaguti, 1939宿主：マナガツオ *Pampus punctatissimus* (= *Stromateoides argenteus*)

寄生部位：鰓

地理的分布：-（京都大学瀬戸臨海実験所 [保存標本]：Yamaguti, 1939）

備考：本種の分布域は広く、チリ（Cressey, 1968）、北東太平洋（Kabata, 1981）、ニュージーランド（Jones, 1985）、南アフリカ（Oldewage, 1993）からも記録がある。新標準和名は、本種がマナガツオの鰓に寄生することに因む。

ツツガタエラノミ (新称)

Hatschekia cylindrus Uyeno and Nagasawa, 2009宿主：イトヒキオキハギ *Abalistes filamentosus*

寄生部位：鰓

地理的分布：北太平洋（沖縄県沖縄島名護市天仁屋沖：Nagasawa and Uyeno, 2009b）

備考：新標準和名は、本種の体形が筒形であることに因む。本種の宿主魚は中坊（2000）には掲載されていない。その和名と学名は松浦・吉野（2005）と Matsuura and Yoshino（2004）による。

クマドリノエラノミ (新称)

Hatschekia fukurubi Uyeno and Nagasawa, 2010宿主：クマドリ *Balistapus undulatus*

寄生部位：鰓

地理的分布：東シナ海（沖縄県沖縄島残波岬沖：Uyeno and Nagasawa, 2010c）

備考：新標準和名は、本種がクマドリの鰓に寄生することに因む。

エラノミ (改称)

Hatschekia fusiformis Shiino, 1957異名リスト：*Hatschekia* sp.（市原ら, 1965）宿主：ハシキンメ *Gephyroberyx japonicus*, ヒウチダイ *Hoplostethus japonicus* (= *Hoplostethus mediterraneus*)

寄生部位：鰓

地理的分布：北太平洋（神奈川県相模湾：市原ら, 1965, 和歌山県南部町沖：Shinno, 1957b）

備考：市原ら（1965）が相模湾産ハシキンメから得て *Hatschekia* sp. として報告した個体の形態学的特徴が本種とほとんど一致するので、ここに含める。Shinno（1957b）が本種の宿主として報告した *Hoplostethus mediterraneus* はわが国に生息しない（中坊，2000）。しかし、椎野（1965）はこの種を「ヒウチダイ」と記しているため、ここでもヒウチダイとする。本種の標準和名に関して、椎野（1965）は「つつうおじらみ」を用いたが、エラノミ属の和名の項で説明したように、本種にこの和名を用いると、本種が別科のツツウオジラミ科 *Dichelesthiidae* に属することを連想させるので好ましくない。そこで、本種の標準和名をエラノミに改称する。

イノーエラノミ（新称）

Hatschekia hemicyclium Uyeno and Nagasawa, 2010

宿主：クラカケモンガラ *Rhinecanthus verrucosus*, ムラサメモンガラ *R. aculeatus*, タスキモンガラ *R. rectangulus*

寄生部位：鰓

地理的分布：北太平洋（沖縄県沖縄島大度海岸沖：Uyeno and Nagasawa, 2010c），東シナ海（沖縄県沖縄島真栄田岬沖・同県沖縄島砂辺沖：Uyeno and Nagasawa, 2010c）

備考：新標準和名は、本種の宿主が多く生息する礁池を表す沖縄地方の方言「イノー」に因む。

ハリセンボンノエラノミ（新称）

Hatschekia iridescens Wilson, 1913

異名リスト：*Hatschekia diodontis* (Yamaguti, 1953)

宿主：ネズミフグ *Diodon hystrix*, ハリセンボン *D. holocanthus*, ヒトヅラハリセンボン *Diodon liturosus*

寄生部位：鰓

地理的分布：北太平洋（高知県大月町西泊・沖縄県慶良間列島阿嘉：Uyeno and Nagasawa, 2009a），東シナ海（沖縄県那覇市：Yamaguti, 1953; 沖縄県金武湾与那城：Uyeno and Nagasawa, 2009a）

備考：Yamaguti（1953）が那覇産ハリセンボンから得て記載した *Hatschekia diodontis* は、Jones（1985）によって本種の新参異名とされた。新標準和名は、本種がハリセンボン属魚類の鰓に寄生することに因む。

イゼナエラノミ（新称）

Hatschekia izenaensis Uyeno and Nagasawa, 2010

宿主：スジナメモンガラ *Xanthichthys lineopunctatus*

寄生部位：鰓

地理的分布：東シナ海（沖縄県伊是名島沖：Uyeno and Nagasawa, 2010c）

備考：新標準和名は、本種の模式産地である沖縄県伊是名島に因む。

ニッポンエラノミ（新称）

Hatschekia japonica Jones, 1985

異名リスト：*Hatschekia labracis* (Yamaguti, 1939)

宿主：イラ *Choerodon azurio*

寄生部位：鰓

地理的分布：瀬戸内海（兵庫県垂水：Yamaguti, 1939）

備考：Yamaguti (1939) が垂水産イラから得て *Hatschekia labracis* に同定した種は, Jones (1985: 246) によって本種に命名された。このため, Uyeno and Nagasawa (2009a) が日本産エラノミ属の検索表を作成した際, 本種を *H. labracis* と記したが, それは誤りで *H. japonica* と記すべきであった。新標準和名は, 本種の種小名 *japonica* が日本を示すことに因む。

ジョーンズエラノミ（新称）

Hatschekia jonesi Uyeno and Nagasawa, 2010

宿主：ムスメハギ *Sufflamen bursa*, メガネハギ *S. fraenatum*

寄生部位：鰓

地理的分布：東シナ海（沖縄県沖縄島真栄田岬沖・同県沖縄島北谷町沖：Uyeno and Nagasawa, 2010c）

備考：新標準和名は, エラノミ属の分類に大きな貢献をした J. B. Jones 博士の姓に因む。

カバタエラノミ（新称）

Hatschekia kabatai Uyeno and Nagasawa, 2010

宿主：スジナメモンガラ *Xanthichthys lineopunctatus*

寄生部位：鰓

地理的分布：東シナ海（沖縄県伊是名島沖：Uyeno and Nagasawa, 2010c）

備考：新標準和名は, 寄生性カイアシ類の系統分類学で偉大な業績を挙げた Z. Kabata 博士の姓に因む。

ウルマエラノミ（新称）

Hatschekia khahajya Uyeno and Nagasawa, 2010

宿主：ハクセイハギ *Cantherhines dumerilii*, アザミカワハギ *Amanses scopas*

寄生部位：鰓

地理的分布：北太平洋（沖縄県黒島：Uyeno and Nagasawa, 2010b）, 東シナ海（沖縄県座間味島沖：Uyeno and Nagasawa, 2010b）

備考：新標準和名は, サンゴの島を意味する沖縄地方の方言「うるま」に因む。

クロシオエラノミ（新称）

Hatschekia kuroshioensis Uyeno and Nagasawa, 2010

宿主：ハマフグ *Tetrosomus concatenates*

寄生部位：鰓

地理的分布：北太平洋（高知県黒潮町土佐賀沖：Uyeno and Nagasawa, 2010a）

備考：新標準和名は, 本種の模式産地である高知県黒潮町に因む。

イシガキフグノエラノミ (新称)

Hatschekia legouli Nuñez-Ruvio, 1954宿主：イシガキフグ *Chilomycterus reticulatus*

寄生部位：鰓

地理的分布：北太平洋（高知県大月町西泊：Uyeno and Nagasawa, 2009a), 東シナ海（鹿児島県種子島西之表市：Uyeno and Nagasawa, 2010b)

備考：新標準和名は、本種がイシガキフグの鰓に寄生することに因む。

ブダイノエラノミ (新称)

Hatschekia leptoscari Yamaguti, 1939宿主：ブダイ *Calotomus japonicus* (= *Leptoscarus japonicus*)

寄生部位：鰓

地理的分布：瀬戸内海（兵庫県垂水：Yamaguti, 1939)

備考：新標準和名は、本種がブダイの鰓に寄生することに因む。

ヤスリエラノミ (新称)

Hatschekia lima Uyeno and Nagasawa, 2009宿主：イトヒキオキハギ *Abalistes filamentosus*

寄生部位：鰓

地理的分布：北太平洋（沖縄県沖縄島名護市天仁屋沖：Nagasawa and Uyeno, 2009b)

備考：新標準和名は、本種の体表がヤスリ状でざらざらしていることに因む。本種の宿主魚は中坊（2000）には掲載されていない。その和名と学名は松浦・吉野（2005）と Matsuura and Yoshino（2004）による。

セノピエラノミ (新称)

Hatschekia longibrachium Yamaguti, 1939宿主：アカアマダイ *Brachistegus japonicus*

寄生部位：鰓

地理的分布：日本海（福井県小浜：Yamaguti, 1939)

備考：本種は韓国産アカアマダイからも記録がある（Kim, 1998）。新標準和名は、本種の体が細長く伸長することに因む。

アカモンガラノエラノミ (新称)

Hatschekia mihkagan Uyeno and Nagasawa, 2010宿主：アカモンガラ *Odonus niger*

寄生部位：鰓

地理的分布：東シナ海（沖縄県瀬底島沖：Uyeno and Nagasawa, 2010c)

備考：新標準和名は、本種がアカモンガラの鰓に寄生することに因む。

ウマヅラハギノエラノミ（新称）

Hatschekia monacanthi Yamaguti, 1939

宿主：カサゴ *Sebastes marmoratus*, ウマヅラハギ *Thamnaconus modestus* (= *Navodon modestus*), カワハギ *Stephanolepis cirrhifer* (= *Monacanthus cirrhifer*)

寄生部位：鰓

地理的分布：日本海（富山県富山湾：Yamaguti, 1939, 石川県小木：Jones, 1985, 福井県小浜：Yamaguti, 1939, 鳥取県境港：Uyeno and Nagasawa, 2009a), 瀬戸内海（広島県大崎上島：Uyeno and Nagasawa, 2009a)

備考：Yamaguti (1939) は本種をカワハギから得たと報告したが、Uyeno and Nagasawa (2009a) は日本各地からカワハギを得て調べてもエラノミ属カイアシ類を一切見出せなかったことから、本種はウマヅラハギに特異的で、Yamaguti が宿主の同定を誤ったのではないかと考えている。彼らはまた、カサゴに本種の寄生が見られたことに関して (Yamaguti, 1939), これは魚市場での取り扱い中に本種がカワハギ科魚類からカサゴに偶然移ったことが原因であるとみている。新標準和名は、本種がウマヅラハギの鰓に寄生することに因む。

モンガラカワハギノエラノミ（新称）

Hatschekia mongarah Uyeno and Nagasawa, 2010

宿主：モンガラカワハギ *Balistoides conspicillum*

寄生部位：鰓

地理的分布：東シナ海（沖縄県座間味島沖・同県与那国島沖：Uyeno and Nagasawa, 2010c)

備考：新標準和名は、本種がモンガラカワハギの鰓に寄生することに由来する。

ナハエラノミ（新称）

Hatschekia nahaensis Yamaguti, 1953

宿主：オヤビツチャ属の1種 *Abudefduf* sp.

寄生部位：鰓

地理的分布：東シナ海（沖縄県那覇市：Yamaguti, 1953)

備考：新標準和名は、本種の模式産地の沖縄県那覇市に由来する。

ナカムラエラノミ（新称）

Hatschekia nakamurai Uyeno and Nagasawa, 2010

宿主：クロモンガラ *Melichthys vidua*

寄生部位：鰓

地理的分布：東シナ海（沖縄県瀬底島沖・同県水納島沖：Uyeno and Nagasawa, 2010c)

備考：新標準和名は、琉球大学瀬底臨海実験所技術専門職員の仲村茂夫氏の姓に由来する。

ハコフグノエラノミ (新称)

Hatschekia ostracii Yamaguti, 1953

宿主：ミナミハコフグ *Ostracion cubicus* (= *Ostracion tuberculatum*), ハコフグ *Ostracion immaculatus*

寄生部位：鰓

地理的分布：北太平洋 (高知県竜串: Uyeno and Nagasawa, 2009a), 東シナ海 (沖縄県慶良間列島阿真・同
県崎本部: Uyeno and Nagasawa, 2009a), 瀬戸内海 (徳島県小松島: Yamaguti, 1953)

備考：本種は韓国産ハコフグにも寄生する (Kim, 1998)。新標準和名は、本種がハコフグ属魚類の鰓に寄生することに由来する。

マダイノエラノミ (新称)

Hatschekia pagrosomi Yamaguti, 1939

異名リスト：*Hatschekia trachuri* (Yamaguti and Yamasu, 1960)

宿主：マダイ *Pagrus major* (= *Pagrosomus unicolor*), フェフキダイ *Lethrinus haematopterus*, マアジ
Trachurus japonicus (= *Trachurus trachuri*)

寄生部位：鰓

地理的分布：瀬戸内海 (-: Yamaguti 1939, 兵庫県垂水: Yamaguti and Yamasu 1960)

備考：Yamaguti and Yamasu (1960) が垂水産マアジから得て記載した *Hatschekia trachuri* は、Jones (1985) によって本種の新参異名とされた。本種はオーストラリア (Kabata, 1991), ニュージーランド (Roubal et al., 1983), 韓国 (Kim, 1998) にも分布する。新標準和名は、本種がマダイの鰓に寄生することによって由来する。Kabata (1991) は、市原ら (1964) が相模湾産マアジから本種 (*H. trachuri*) を得たと記しているが、原著にはそのような記述はない。

シリゴミアラノミ (新称)

Hatschekia pseudobalistesi Uyeno and Nagasawa, 2010

宿主：イソモンガラ *Pseudobalistes fuscus*

寄生部位：鰓

地理的分布：北太平洋 (沖縄県金武湾平安座島沖: Uyeno and Nagasawa, 2010c)

備考：新標準和名は、本種の後体部が極端に短いことに由来する。

ベラノエラノミ (新称)

Hatschekia pseudolabri Yamaguti, 1953

宿主：ササノハベラ属の1種 *Pseudolabrus* sp. (= *Pseudolabrus japonicus*), キツネダイ *Bodianus oxycephalus*
(= *Verreo oxycephalus*)

寄生部位：鰓

地理的分布：瀬戸内海 (徳島県小松島: Yamaguti, 1953)

備考：中坊 (2000) によれば、従来わが国で *Pseudolabrus japonicus* とされてきたササノハベラ属魚類には2種が混在し、それらのいずれにも *P. japonicus* の学名は用いることができないため、ここではササノハベラ属の1種として扱う。新標準和名は、本種がベラ科魚類の鰓に寄生することによって由来する。

イトマキフグノエラノミ (新称)

Hatschekia pseudostracii Uyeno and Nagasawa, 2010宿主：イトマキフグ *Kentrocapros aculeatus*

寄生部位：鰓

地理的分布：東シナ海 (－: Uyeno and Nagasawa, 2010a)

備考：新標準和名は、本種がイトマキフグの鰓に寄生することに因む。

ミカツキエラノミ (新称)

Hatschekia quadrabdominalis Yü, 1933異名リスト：*Hatschekia curvata* (Yamaguti and Yamasu, 1959)宿主：キントキダイ *Priacanthus macracanthus*

寄生部位：鰓

地理的分布：北太平洋 (愛知県新舞子東京大学水族館: Yamaguti and Yamasu, 1959)

備考：Yamaguti and Yamasu (1959) がキントキダイから得て記載した *Hatschekia curvata* は、Jones (1985) によって本種の新参異名とされた。本種は中国 (Yü, 1933; Jones, 1985では Chile と誤記)、ベネズエラ (Jones, 1985) にも分布する。新標準和名は、本種の胴部が三日月様に湾曲することに因む。

メイチダイノエラノミ (新称)

Hatschekia rotundigenitalis Yamaguti, 1939宿主：メイチダイ *Gymnocranius griseus*

寄生部位：鰓

地理的分布：北太平洋 (京都大学瀬戸臨海実験所: Yamaguti, 1939)

備考：本種はオーストラリアにも分布する (Kabata, 1991)。新標準和名は、本種がメイチダイの鰓に寄生することに因む。

スミレヤッコノエラノミ (新称)

Hatschekia sumireyakko Uyeno and Nagasawa, 2012宿主：スミレヤッコ *Paracentropyge venusta* (= *Centropyge venusta*)

寄生部位：鰓

地理的分布：東シナ海 (沖縄県久米島鳥島沖: Nagasawa and Uyeno, 2012)

備考：新標準和名は、本種がスミレヤッコの鰓に寄生することに因む。

スナオエラノミ (新称)

Hatschekia sunaoi Uyeno and Nagasawa, 2009宿主：イトヒキオキハギ *Abalistes filamentosus*

寄生部位：鰓

地理的分布：北太平洋（沖縄県沖縄島名護市天仁屋沖：Nagasawa and Uyeno, 2009b）

備考：新標準和名は、本種の採集に協力くださった山城 淳氏（沖縄市）の名に因む。本種の宿主魚は中坊（2000）には掲載されていない。その和名と学名は松浦・吉野（2005）と Matsuura and Yoshino（2004）による。

マツカサウオノエラノミ（新称）

Hatschekia tenuis (Heller, 1865)

異名リスト：*Hatschekia monocentris* (Yamaguti and Yamasu, 1959)

宿主：マツカサウオ *Monocentris japonica*

寄生部位：鰓

地理的分布：瀬戸内海（-：Yamaguti and Yamasu, 1959）

備考：Yamaguti and Yamasu（1959）が玉野産マツカサウオから得て記載した *Hatschekia monocentris* は、Jones（1985）によって本種の新参異名とされた。本種はフィリピンからも記録がある（Jones, 1985）。新標準和名は、本種がマツカサウオの鰓に寄生することに因む。

ミツワエラノミ（新称）

Hatschekia triannuli Uyeno and Nagasawa, 2012

宿主：ヘラルドコガネヤッコ *Centropyge heraldi*

寄生部位：鰓

地理的分布：東シナ海（沖縄県久米島島島沖：Nagasawa and Uyeno, 2012）

備考：新標準和名は、本種の頭胸部背面に3個のリング状骨格がよく発達することに因む。

ザンパエラノミ（新称）

Hatschekia zanpa Uyeno and Nagasawa, 2010

宿主：クマドリ *Balistapus undulatus*

寄生部位：鰓

地理的分布：東シナ海（沖縄県沖縄島残波岬沖・同県沖縄島北谷沖：Uyeno and Nagasawa, 2010c）

備考：新標準和名は、本種の模式産地の沖縄県残波岬に由来する。

未同定種

Hatschekia sp.

異名リスト：*Hatschekia* sp.（加藤ら, 1963）

宿主：クロシビカマス *Promethichthys prometheus*

寄生部位：鰓

地理的分布：北太平洋（神奈川県相模湾：加藤ら, 1963）

アシュラエラノミ属 (新称)

Genus *Prohatschekia* Nuñez-Ruvio, 1954

新標準和名は、二分岐した3対の脚肢（第1-3胸肢）もつ本属カイアシ類の形態学的特徴が、同じく3対の腕を有する阿修羅に似ていることに因む。本属に関しては Hamza *et al.* (2007) が有用である。

アシュラエラノミ (新称)

Prohatschekia antennalis Avdeev and Kazatchenko, 1986宿主：アンコウ *Lophiomus setigerus*

寄生部位：鰓

地理的分布：北太平洋（日本南方海域：Avdeev and Kazatchenko, 1986）

コヒゲアシュラエラノミ (新称)

Prohatschekia awatati (Yamaguti, 1939)異名リスト：*Hatschekia awatati* (Yamaguti, 1939)宿主：シオイタチウオ属の1種 *Neobythites macrops*

寄生部位：鰓

地理的分布：北太平洋（静岡県舞阪：Yamaguti, 1939）

備考：本種の宿主は上記学名で報告されたが (Yamaguti, 1939), 中坊 (2000) にはこの学名に一致する種がないため、ここではシオイタチウオ属の1種とする。本種はオーストラリアにも分布する (Kabata, 1991)。新標準和名は、本種の第1触角が短いことに因む。

アカムツノアシュラエラノミ (新称)

Prohatschekia laguncula Shiino, 1957宿主：アカムツ *Doederleinia berycoides*

寄生部位：鰓

地理的分布：北太平洋（三重県尾鷲沖：Shiino, 1957b）

備考：新標準和名は、本種がアカムツの鰓に寄生することに因む。

カサゴノアシュラエラノミ (新称)

Prohatschekia sebastisci (Yamaguti, 1939)異名リスト：*Hatschekia sebastisci* (Yamaguti, 1939)宿主：カサゴ *Sebastes marmoratus*

寄生部位：鰓

地理的分布：日本海（福井県小浜：Yamaguti, 1939）

備考：新標準和名は、本種がカサゴの鰓に寄生することに因む。

ハモノエラノミ属 (新称)

Genus *Pseudocongericola* Yu, 1933

ハモノエラノミ (改称)

Pseudocongericola chefoonensis Yu, 1933宿主：ハモ *Muraenesox cinereus*

寄生部位：鰓

地理的分布：瀬戸内海 (–: Yamaguti, 1939), – (Shiino, 1957b)

備考：椎野 (1965, 1979) は、本種の和名として「はものつつうおじらみ」を用いた。しかし、「つつうおじらみ」は別科 *Dichelesthiidae* のカイアシ類を示す和名であるため、ここで本種の標準和名をハモノエラノミに改称する。この和名の改称に関しては、エラノミ属の説明とエラノミの備考を参照されたい。本属の新標準和名と本種の改称和名は宿主の和名に由来する。

ニセエラノミ科 (新称)

Family *Pseudohatschekiidae* Tang, Izawa, Uyeno and Nagasawa, 2010

本科が創設された経緯は Tang *et al.* (2010) に詳しい。新標準和名は、科名にある *Pseudo* が偽物を意味することによる。

ニセエラノミ属 (新称)

Genus *Pseudohatschekia* Yamaguti, 1939

ニセエラノミ (新称)

Pseudohatschekia branchiostegi Yamaguti, 1939異名リスト：*Pseudohatschekia mebaru* (Yamaguti, 1939)

宿主：アカメバル *Sebastes inermis* (= *Sebastes inermis*), アカアマダイ *Brachioptegus japonicus*, シロアマダイ *Brachioptegus albus*, ハナアマダイ *Brachioptegus* sp.

寄生部位：鰓

地理的分布：北太平洋 (和歌山県田辺湾: Tang *et al.*, 2010, 高知県高知市: Yamaguti, 1939, 沖縄県沖縄島泡瀬魚市場: Tang *et al.*, 2010), 日本海 (山口県萩市沖: Tang *et al.*, 2010, 長崎県対馬沖: Tang *et al.*, 2010), 瀬戸内海 (兵庫県垂水: Yamaguti, 1939), – (沖縄県沖縄島沖: Tang *et al.*, 2010)

備考：Tang *et al.* (2010) は本種を再記載するとともに、その特異な形態に基づき、本種をもとにニセエラノミ科を創設した。その際、垂水産アカメバルから記載された *Pseudohatschekia mebaru* を本種の新参異名とした。本種は韓国産アカアマダイにも寄生する (Kim, 1998)。なお、本目録ではメバル属魚類の学名と和名は Kai and Nakobo (2008) に従った。

宿主一寄生虫リスト

軟骨魚綱 Chondrichthyes

ネズミザメ目 Lamniformes

ネズミザメ科 Lamnidae

アオザメ *Isurus oxyrinchus* : ハナガタムシ *Anthosoma crassum*

ネズミザメ *Lamna ditropis* : ハナガタムシ *Anthosoma crassum*

ホホジロザメ *Carcharodon carcharias* : ハナガタムシ *Anthosoma crassum*

メジロザメ目 Carcharhiniformes

メジロザメ科 Carcharhinidae

ヨシキリザメ *Prionace glauca* : ハナガタムシ *Anthosoma crassum*

カグラザメ目 Hexanchiformes

カグラザメ科 Hexanchidae

エドアブラザメ *Hepranchias perlo* : ハナガタムシ *Anthosoma crassum*

硬骨魚綱 Osteichthyes

ウナギ目 Anguilliformes

ハモ科 Muraenesocidae

ハモ *Muraenesox cinereus* : ハモノエラノミ *Pseudocongericola chefoonensis*

アナゴ科 Congridae

マナゴ *Conger myriaster* : アナゴノエラノミ *Congericola congeri*

アシロ目 Ophidiiformes

アシロ科 Ophidiidae

シオイタチゾウオ属の1種 *Neobythites macrops* : コヒゲアシユラエラノミ *Prohatschekia awatati*

アンコウ目 Lophiiformes

アンコウ科 Lophiidae

アンコウ *Lophiomus setigerus* : アシユラエラノミ *Prohatschekia antennalis*

キンメダイ目 Beryciformes

ヒウチダイ科 Tracichthyidae

ハシキンメ *Gephyroberyx japonicus* : エラノミ *Hatschekia fusiformis*

ヒウチダイ *Hoplostethus japonicus* : エラノミ *Hatschekia fusiformis*

マツカサウオ科 Monocentridae

マツカサウオ *Monocentris japonica* : マツカサウオノエラノミ *Hatschekia tenuis*

カサゴ目 Scorpaeniformes

フサカサゴ科 Scorpaenidae

アカメバル *Sebastes inermis* : ニセエラノミ *Pseudohatschekia branchiostegi*

カサゴ *Sebastes marmoratus* : ウマヅラハギノエラノミ *Hatschekia monacanthi*, カサゴノアシユラエラノミ *Prohatschekia sebastisci*

スズキ目 Perciformes

ホタルジャコ科 Acropomatidae

アカムツ *Doederleinia berycoides* : アカムツノアシユラエラノミ *Prohatschekia laguncula*

ハタ科 Serranidae

マハタ *Epinephelus* sp. : ハタノエラノミ *Hatschekia cernae*

キハツク *Diploprion bifasciatum* : キハツクノエラノミ *Hatschekia bifurcata*

キントキダイ科 Priacanthidae

キントキダイ *Priacanthus macracanthus* : ミカヅキエラノミ *Hatschekia quadrabdominalis*

アマダイ科 Branchiostegidae

- アカアマダイ *Brachioptegus japonicus* : アカアマダイノエラノミ *Hatschekia branchiostegi*, セノビエ
 ラノミ *Hatschekia longibrachium*, ニセエラノミ *Pseudohatschekia branchiostegi*
 シロアマダイ *Brachioptegus albus* : ニセエラノミ *Pseudohatschekia branchiostegi*
 ハナアマダイ *Brachioptegus* sp. : ニセエラノミ *Pseudohatschekia branchiostegi*
- アジ科 Carangidae
 マアジ *Trachurus japonicus* : マダイノエラノミ *Hatschekia pagrosomi*
- タイ科 Sparidae
 マダイ *Pagrus major* : マダイノエラノミ *Hatschekia pagrosomi*
- フエフキダイ科 Lethrinidae
 フエフキダイ *Lethrinus haematopterus* : マダイノエラノミ *Hatschekia pagrosomi*
 メイチダイ *Gymnocranius griseus* : メイチダイノエラノミ *Hatschekia rotundigenitalis*
- キンチャクダイ科 Pomacanthidae
 スミレヤッコ *Paracentropyge venusta* : スミレヤッコノエラノミ *Hatschekia sumireyakko*
 ヘラルドコガネヤッコ *Centropyge heraldi* : ミツワエラノミ *Hatschekia triannuli*
- アカタチ科 Cepolidae
 イッテンアカタチ *Acanthocephala limbata* : アカタチノエラノミ *Hatschekia cepolae*
 スミツキアカタチ *Cepola schlegeli* : アカタチノエラノミ *Hatschekia cepolae*
- スズメダイ科 Pomacentridae
 オヤビツチャ属の1種 *Abudefduf* sp. : ナハエラノミ *Hatschekia nahaensis*
- マナガツオ科 Stromateidae
 マナガツオ *Pampus punctatissimus* : マナガツオノエラノミ *Hatschekia conifera*
- ベラ科 Labridae
 イラ *Choerodon azurio* : ニッポンエラノミ *Hatschekia japonica*
 キツネダイ *Bodianus oxycephalus* : ベラノエラノミ *Hatschekia pseudolabri*
 ササノハベラ属の1種 *Pseudolabrus* sp. : ベラノエラノミ *Hatschekia pseudolabri*
 キュウセン *Halichoeres poecilopterus* : アカアマダイノエラノミ *Hatschekia branchiostegi*
- ブダイ科 Scaridae
 ブダイ *Calotomus japonicus* : ブダイノエラノミ *Hatschekia leptoscari*
- クロタチカマス科 Gempylidae
 クロシビカマス *Promethichthys prometheus* : *Hatschekia* sp.
- フグ目 Tetraodontiformes
 モンガラカワハギ科 Balistidae
 アカモンガラ *Odonus niger* : アカモンガラノエラノミ *Hatschekia mihkagan*
 イソモンガラ *Pseudobalistes fuscus* : シリゴミエラノミ *Hatschekia pseudobalistesi*
 イトヒキオキハギ *Abalistes filamentosus* : ツツガタエラノミ *Hatschekia cylindrus*, ヤスリエラノミ
Hatschekia lima, スナオエラノミ *Hatschekia sunaoi*
 キヘリモンガラ *Pseudobalistes flavimarginatus* : リュウキュウエラノミ *Hatschekia churaumi*
 クマドリ *Balistapus undulatus* : クマドリノエラノミ *Hatschekia fukurubi*, ザンパエラノミ *Hatschekia*
zanpa
 クラカケモンガラ *Rhinecanthus verrucosus* : イノーエラノミ *Hatschekia hemicyclium*
 クロモンガラ *Melichthys vidua* : ナカムラエラノミ *Hatschekia nakamurai*
 スジナメモンガラ *Xanthichthys lineopunctatus* : イゼナエラノミ *Hatschekia izenaensis*, カバタエラ
 ノミ *Hatschekia kabatai*
 タスキモンガラ *Rhinecanthus rectangulus* : イノーエラノミ *Hatschekia hemicyclium*
 ムスメハギ *Sufflamen bursa* : ジョーンズエラノミ *Hatschekia jonesi*
 ムラサメモンガラ *Rhinecanthus aculeatus* : イノーエラノミ *Hatschekia hemicyclium*

- メガネハギ *Sufflamen fraenatum* : ジョーンズエラノミ *Hatschekia jonesi*
 モンガラカワハギ *Balistoides conspicillum* : モンガラカワハギノエラノミ *Hatschekia mongarah*
 カワハギ科 Monacanthidae
 アザミカワハギ *Amanses scopas* : ウルマエラノミ *Hatschekia khahajya*
 ウマヅラハギ *Thamnaconus modestus* : ウマヅラハギノエラノミ *Hatschekia monacanthi*
 カワハギ *Stephanolepis cirrhifer* : ウマヅラハギノエラノミ *Hatschekia monacanthi*
 ハクセイハギ *Cantherhines dumerilii* : ウルマエラノミ *Hatschekia khahajya*
 イトマキフグ科 Aracnidae
 イトマキフグ *Kentrocapros aculeatus* : イトマキフグノエラノミ *Hatschekia pseudostracii*
 ハコフグ科 Ostraciidae
 ウミスズメ *Lactoria diaphana* : ウミスズメノエラノミ *Hatschekia bibullae*
 ハコフグ *Ostracion immaculatus* : ハコフグノエラノミ *Hatschekia ostracii*
 ハマフグ *Tetrosomus concatenates* : クロシオエラノミ *Hatschekia kuroshioensis*
 ミナミハコフグ *Ostracion cubicus* : ハコフグノエラノミ *Hatschekia ostracii*
 ハリセンボン科 Diodontidae
 イシガキフグ *Chilomycterus reticulatus* : イシガキフグノエラノミ *Hatschekia legouli*
 ネズミフグ *Diodon hystrix* : ハリセンボンノエラノミ *Hatschekia iridescens*
 ハリセンボン *Diodon holocanthus* : ハリセンボンノエラノミ *Hatschekia iridescens*
 ヒトヅラハリセンボン *Diodon liturosus* : ハリセンボンノエラノミ *Hatschekia iridescens*

今後の研究課題

わが国では、山口左伸博士と椎野季雄博士によって、それぞれ1930年代と1950年代から周辺海域における魚類寄生性カイアシ類の分類学的研究が精力的に行われ、24種のエラノミ科カイアシ類が報告された (Yamaguti, 1939, 1953; Yamaguti and Yamasu, 1959, 1960; Shiino, 1957b, 1957c)。両博士は様々な海域で調査を行い、その研究成果は膨大であるが、未調査の海域も多く残されている。なかでも、南西諸島海域における研究は著しく遅れており、両博士によって報告されたエラノミ属はハタノエラノミとナハエラノミのわずかに2種にすぎない (Yamaguti, 1953; Shiino, 1957b)。この海域は黒潮に強く影響を受けた亜熱帯域であり、魚類相が九州以北の日本列島の大きく異なるほか、その種相も非常に多様であることから、数多くのエラノミ科カイアシ類が分布すると推測される。実際、近年筆者らによって行われた調査では、主にフグ目魚類から17新種が見出されている (Uyeno and Nagasawa, 2009b, 2010b, 2010c, 2012)。今後、検査魚の種数を増やして研究を継続的に行うことにより、その種数は数倍に膨れ上がるだろう。また、日本列島周辺の沿岸海域において、水産的価値が低い魚種は今までに寄生虫検査が一度も行わなかったことが多い。今後、漁業者を介さない方法によって採集される魚種を調べることで、多くの未報告種が発見される可能性がある。同様に、深海域に生息する魚類についても、まだ十分研究が進められているとは言い難い。中深層以深を主な生息環境とする魚類からの報告は、ヒウチダイとハシキンメからのエラノミ、アンコウからのアシユラエラノミ、シオイタチウオ属の1種からのコヒゲアシユラエラノミの3種とクロシビカマスからのエラノミ属の未同定1種に限られており (Yamaguti, 1939; Shiino, 1957b; 加藤ら, 1963; Avdeev and Kazatchenko, 1986)、研究の余地がある。

このような状況から、日本周辺海域におけるエラノミ科相は今後さらなる種数の増加が見込めるが、現時点で日本周辺海域から記録されている本科は4属44種であり、世界的スケールで見た場合、この海域が最も多くの種が報告されている場所であることも間違いない。近隣の韓国からの2属5種 (Kim, 1998)、中国からの2属2種 (Song and Kuang, 1980) をはるかに凌ぐ。またインドとオーストラリアからそれぞれ記録された2属7種 (Pillai, 1985) と3属18種 (cf. Kabata, 1991) よりも著しく多い。しかし、エラノミ科に関する知見が極めて限られている台湾と東南アジア諸国を含む熱帯アジア周辺海域とオセアニアの低緯度島嶼海域では、過去に十分な研究が行われていないだけで、生息魚種の多様さから、その種数は日本周辺海域を大きく

上回ると予測される。ニューカレドニア産ハタ科魚類の寄生虫相に関する知見を整理した Justine *et al.* (2010) は、それら魚種に10種のエラノミ科カイアシ類を認め、多くの魚種は固有のエラノミ属に寄生を受けていると記している。今後は、世界各地の研究者と連携して研究を推進することにより、エラノミ科カイアシ類の多様性を明らかにしていくも重要な課題であろう。

本目録で扱ったツツウオジラミ科, エラノミ科, ニセエラノミ科に関する生態学的知見は極めて乏しい。生物学的知見があるのはハナガタムシ (例えば Benz *et al.*, 2002; Ingram, 2004) とエラノミ属の1種 *Hatschekia plectropomi* (Scott-Holland *et al.*, 2006) にすぎず、それらも外国で行われた研究に基づくものである。今後は、生活史や宿主との相互関係の解明などを行い、カイアシ類3科の理解を深めることも必要であろう。加えて、エラノミ科では、形態記載の多くが成体雌のみを用いて行われてきたが、成体雄を見出して行うことも重要である。

引用文献

- Avdeev, G. V., Kazatchenko, V. N., 1986. Parasitic copepods from fishes of the genus *Lophiomus* Gill in the Pacific. *Crustaceana*, **50**: 53-67.
- Benz, G. W., Borucinska, J., Greenwald, S. A., 2002. First descriptions of early- and middle-stage copepodids of *Anthosoma crassum* (Dichelethiidae: Siphonostomatoida) and lesions on shortfin makos (*Isurus oxyrinchus*) infected with *A. crassum*. *Journal of Parasitology*, **88**: 19-26.
- Boxshall, G. A., Halsey, S. H., 2004. *An Introduction to Copepod Diversity*. The Ray Society, London. 966 pp.
- Cressey, R. F., 1968. A redescription of *Hatschekia conifera* Yamaguti 1939 (Copepoda, Caligoida), including the first description of the male. *Proceedings of the Biological Society of Washington*, **81**: 173-178.
- 動物命名国際審議会, 2000. 国際動物命名規約 (第4版) 日本語版 (野田泰一・西川輝昭編). 日本動物分類学関連学会連合, 札幌市: 133 pp.
- Hamza, F., Boxshall, G., Kechemir-Issad, N., 2007. A new species of *Prohatschekia* Nunes-Rivio, 1954 (Copepoda: Hatschekiidae) parasitic on *Scorpaena elongata* (Cadenat) off Algeria. *Systematic Parasitology*, **67**: 119-124.
- Ho, J.-S., Kim, I.-H., 1996. Copepods parasitic on fishes of western North Pacific. *Publications of the Seto Marine Biological Laboratory*, **37**: 275-303.
- Ho, J.-S., Nagasawa, K., 2001. New records of parasitic Copepoda from the offshore pelagic fishes of Japan. *Bulletin of the National Research Institute of Far Seas Fisheries*, (38): 1-5.
- 市原醇郎・加藤和子・亀谷俊也・亀谷 了・野々部春登・町田昌昭, 1964. 相模湾産魚貝類の寄生虫について (第2報). マアジの寄生虫 (その2). *目黒寄生虫館月報*, (65): 2-5.
- 市原醇郎・加藤和子・亀谷俊也・亀谷 了・野々部春登・町田昌昭, 1965. 相模湾産魚貝類の寄生虫について (第3報). 2. イボダイの寄生虫, 3. ハシキンメの寄生虫. *目黒寄生虫館月報*, (78-80): 2-14.
- 飯島 魁, 1918. 動物学提要. 大日本図書, 東京: 950+30 pp.
- 稲葉明彦 (編著), 1988. 増補改定 瀬戸内海の生物相 II. 広島大学理学部附属向島臨海実験所, 広島県向島町: 475 pp.
- Ingram, A. L., 2004. Muscular anatomy and aspects of the structure of the antennae of *Anthosoma crassum* (Dichelethiidae: Siphonostomatoida: Copepoda). *Journal of Parasitology*, **90**: 175-177.
- 石井重美, 1916. 本邦産青鯨の「アンソソーマ」. *動物学雑誌*, **28**(330): 147-149.
- 伊澤邦彦, 1994. 富山湾産魚類の寄生性カイアシ類3種について. *富山市科学文化センター研究報告*, (17): 99-100.
- Jones, J. B., 1985. A revision of *Hatschekia* Poche, 1902 (Copepoda: Hatschekiidae), parasitic on marine fishes. *New Zealand Journal of Zoology*, **12**: 213-271.
- Justine, J.-L., Beveridge, I., Boxshall, G. A., Bray, R. A., Moravec, F., Trilles, J.-P., Whittington, I. D., 2010. An annotated list of parasites (Isopoda, Copepoda, Monogenea, Digenea, Cestoda and Nematoda) collected in

- groupers (Serranidae, Epinephelinae) in New Caledonia emphasizes parasitic biodiversity in coral reef fish. *Folia Parasitologica*, **57**: 237-262.
- Kabata, Z., 1979. *Parasitic Copepoda of British Fishes*. The Ray Society, London: xii + 468 pp. 2031 figs.
- Kabata, Z., 1981. Relegation of *Hatschekia acuta* Barnard, 1948, to synonymy with *Hatschekia confifera* Yamaguti, 1939 (Copepoda: Siphonostomatoida). *Canadian Journal of Zoology*, **59**: 2080-2084.
- Kabata, Z., 1991. Copepoda parasitic on Australian fishes, XIII: family Hatschekiidae. *Journal of Natural History*, **25**: 91-121.
- Kai, Y., Nakobo, T., 2008. Taxonomic review of the *Sebastes inermis* species complex (Scorpaeniformes: Scorpaenidae). *Ichthyological Research*, **55**: 238-259.
- 加藤和子・市原醇郎・亀谷俊也・亀谷 了・野々部春登・坂田俊夫・町田昌昭, 1963. 相模湾産魚貝類の寄生虫について (第1報). (3) クロシビカマスの寄生虫. *目黒寄生虫館月報*, (55-56) : 2-5.
- Kim, I.-H., 1998. *Illustrated Encyclopedia of Fauna and Flora of Korea. Vol. 38. Cirripedia, Symbiotic Copepoda, Pycnogonida*. Ministry of Education, Seoul: 1038 pp. (In Korean).
- 松浦啓一・吉野哲夫, 2005. オキハギ属2種の和名と学名. *魚類学雑誌*, **52** : 161.
- Matsuura, K., Yoshino, T., 2004. A new triggerfish of the genus *Abalistes* (Tetraodontiformes: Balistidae) from the western Pacific. *Records of the Australian Museum*, **56**: 189-194.
- 文部省・日本動物学会, 1988. 学術用語集. 動物学編 (増訂版). 丸善, 東京 : 1122 pp.
- Nagasawa, K., 2011. A checklist of the parasitic copepods (Crustacea) of fishes and invertebrates of the Seto Inland Sea, Japan (1935-2011), with a new locality record for *Caligus macarovi* (Caligidae). *Bulletin of the Hiroshima University Museum*, **3**: 113-128.
- 長澤和也, 2012. サメ類に寄生するカイアシ類, ハナガタムシ. *板鰓類研究会報*, (48) : 16-20.
- 長澤和也・上野大輔, 2011. 日本産魚類に寄生するヒトガタムシ科カイアシ類の目録 (1898-2011年). *日本生物地理学会会報*, **66** : 17-25.
- 長澤和也・海野徹也・上野大輔・大塚 攻, 2007. 魚類寄生虫またはプランクトンとして出現するニセエラジラミ科カイアシ類の目録 (1895-2007年). *日本生物地理学会会報*, **62** : 43-62.
- 長澤和也・上野大輔・Tang, D., 2010. 日本産魚類に寄生するウオジラミ属カイアシ類の目録(1927-2010年). *日本生物地理学会会報*, **65** : 103-122.
- 中坊徹次 (編), 2000. 日本産魚類検索 全種の検索 (第2版). 東海大学出版会, 東京 : 1748 pp.
- 大塚 攻, 1997. 橈脚亜綱 (カイアシ亜綱) Copepoda. 「日本動物大百科 第7巻 無脊椎動物」(奥谷喬司・武田正倫・今福道夫編, 日高敏隆監修), 平凡社, 東京 : 130-131.
- 大塚 攻, 2000. 顎脚類 Maxillopoda. 「動物系統分類学追補版」(青木淳一・田近謙一・森岡弘之編, 山田真弓監修), 中山書店, 東京 : 199-206.
- 大塚 攻・駒井智幸, 2008. 甲殻亜門. 甲殻亜門分類表. 「節足動物の多様性と系統」(石川良輔編, 岩槻邦男・馬渡俊輔監修). 裳華房, 東京 : 172-275, 421-422.
- Oldewage, W. H., 1993. Morphological variation in *Hatschekia confifera* Yamaguti, 1939 (Copepoda, Siphonostomatoida) from the southern Atlantic Ocean. *Crustaceana*, **65**: 41-45.
- Pillai, N. K., 1985. *The Fauna of India. Copepod Parasites of Marine Fishes*. Zoological Survey of India, Calcutta: 900 pp.
- Scott-Holland, T. B., Bennett, S. M., Bennett, M. B., 2006. Distribution of an asymmetrical copepod, *Hatschekia plectropomi*, on the gills of *Plectropomus leopardus*. *Journal of Fish Biology*, **68**: 222-235.
- Roubal, F. R., Armitage, J., Rohde, K., 1983. Taxonomy of metazoan ectoparasites of snapper, *Chrysophrys auratus* (Family Sparidae), from southern Australia, eastern Australia and New Zealand. *Australian Journal of Zoology, Supplement 94*, 1-68.
- Shiino, S. M., 1955. Copepods parasitic on Japanese fishes. 8. The Anthosomidae. *Report of Faculty of Fisheries, Prefectural University of Mie*, **2**: 50-69.
- Shiino, S. M., 1957a. Copepods parasitic on Japanese fishes. 13. Parasitic copepods collected off Kesenuma,

- Miyagi Prefecture. *Report of Faculty of Fisheries, Prefectural University of Mie*, **2**: 359-375.
- Shiino, S. M., 1957b. Copepods parasitic on Japanese fishes. 15. Eudactylinidae and Dichelethiidae. *Report of Faculty of Fisheries, Prefectural University of Mie*, **2**: 392-410.
- Shiino, S. M., 1957c. On a new species of *Hatschekia* (Crustacea, Copepoda) from *Halichoeres poecilopterus* (T. & S.). *Journal of the Faculty, Hokkaido University, Series VI, Zoology*, **18**: 105-108.
- 椎野季雄, 1957. はながたむし *Anthosoma crassum* (Abildgaard). 「原色動物図鑑 IV (節足・円形・担輪・紐形・扁形・有櫛・腔腸・海綿・中生・原生動物)」, 北隆館, 東京: 138, pl. 69.
- 椎野季雄, 1964. 節足動物 (I) 総説・甲殻類. 「動物系統分類学7 (上)」(内田 亨監修), 中山書店, 東京: 312 pp.
- 椎野季雄, 1965. はながたむし *Anthosoma crassum* (Abildgaard), つつうおじらみ *Hatschekia fusiformis* Shiino, はものつつうおじらみ *Pseudocongericola chefoonensis* Yü. 「新日本動物図鑑 [中]」(岡田 要・内田清之助・内田 亨監修), 北隆館, 東京: 498-499.
- 椎野季雄, 1979. はものつつうおじらみ *Pseudocongericola chefoonensis* Yü. 「新編日本動物図鑑」(内田 亨監修, 今島 実・武田正倫編), 北隆館, 東京: 401.
- Song, D. S., Kuang, P. R., 1980. *Illustrations of Chinese animals-Crustacea*. Vol. **4**. Science Press, Beijing: 90 pp. (In Chinese).
- Tang, D., Izawa, K., Uyeno, D., Nagasawa, K., 2010. Pseudohatschekiidae, a new family for *Pseudohatschekia branchiostegi* Yamaguti, 1939 (Crustacea: Copepoda: Siphonostomatoida) from *Branchiostegus* spp. (Teleostei: Perciformes: Malacanthidae) in Japanese waters, with descriptions of the early developmental stages of *P. branchiostegi*. *Systematic Parasitology*, **77**: 215-231.
- 内田 亨 (監修), 1972. 谷津・谷田動物分類名辞典. 中山書店, 東京: 1411 pp.
- Uyeno, D., Nagasawa, K., 2009a. Redescription of four species of *Hatschekia* (Copepoda: Siphonostomatoida: Hatschekiidae) parasitic on tetraodontiform fishes from Japan. *Zootaxa*, **2110**: 1-21.
- Uyeno, D., Nagasawa, K., 2009b. Three new species of *Hatschekia* Poche, 1902 (Copepoda: Siphonostomatoida: Hatschekiidae) parasitic on *Abalites flamentosus* (Pisces: Tetraodontiformes: Balistidae) from off Okinawa, Japan. *Systematic Parasitology*, **74**: 225-237.
- Uyeno, D., Nagasawa, K., 2010a. Three new species of *Hatschekia* Poche, 1902 (Copepoda: Siphonostomatoida: Hatschekiidae) parasitic on boxfishes (Pisces: Tetraodontiformes: Aracnidae and Ostraciidae) in Japanese waters. *Systematic Parasitology*, **75**: 147-158.
- Uyeno, D., Nagasawa, K., 2010b. A new species of parasitic copepod of the genus *Hatschekia* Poche, 1902 (Siphonostomatoida: Hatschekiidae) from filefishes (Pisces: Tetraodontiformes: Monoacanthidae) from off Okinawa, Japan. *Systematic Parasitology*, **76**: 53-58.
- Uyeno, D., Nagasawa, K., 2010c. The copepod genus *Hatschekia* Poche, 1902 (Siphonostomatoida: Hatschekiidae) from triggerfishes (Pisces: Tetraodontiformes: Balistidae) from off the Ryukyu Islands, Japan, with descriptions of eleven new species. *Zootaxa*, **2478**: 1-40.
- Uyeno, D., Nagasawa, K., 2012. Two new species of the copepod *Hatschekia* Poche, 1902 (Siphonostomatoida: Hatschekiidae) from angelfishes (Pisces: Perciformes: Pomacanthidae) collected during the KUMEJIMA 2009 Expedition. *Zootaxa*, **3367**: 49-59.
- Wilson, C. B., 1932. The copepods of the Woods Hole Region, Massachusetts. U. S. National Museum Bulletin, **158**: 1-635.
- Yamaguti, S., 1936. Parasitic copepods from fishes of Japan. Part 3. Caligoidea, II. 21 pp., 9 pls. Published by the author, Japan.
- Yamaguti, S., 1939. Parasitic copepods from fishes of Japan. Part 5. Caligoidea, III. *Volumen Jubilare pro Professore Sadao Yoshida*, **2**: 443-487, 20 pls.
- Yamaguti, S., 1953. Parasitic copepods from fishes of Japan. Part 7. Cyclopoida, III and Caligoidea, IV. *Publications of the Seto Marine Biological Laboratory*, **3**: 221-231. 5 pls.

- Yamaguti, S., 1963. *Parasitic Copepoda and Branchiura of Fishes*. Interscience Publishers, New York, London, and Sydney: 1104 pp.
- Yamaguti, S., Yamasu, T., 1959. Parasitic copepods from fishes of Japan with descriptions of 26 new species and remarks on two known species. *Biological Journal of Okayama University*, **5**: 89-165.
- Yamaguti, S., Yamasu, T., 1960. New parasitic copepods from Japanese waters. *Publications of the Seto Marine Biological Laboratory*, **8**: 141-152, 3 pls.
- Yü, S.-C., 1933. Chinese parasitic copepods collected by H. W. Hu, with descriptions of new genera and species. *Bulletin of the Fan Memorial Institute of Biology*, **4**: 117-139, 8 pls.

A checklist of copepods of the families Dichelethiidae, Hatschekiidae and Pseudohatschekiidae (Siphonostomatoida) from fishes in Japanese waters (1916-2012)

Kazuya NAGASAWA¹⁾ and Daisuke UYENO²⁾

¹⁾ Graduate School of Biosphere Science, Hiroshima University, 1-4-4, Kagamiyama, Higashi-Hiroshima, Hiroshima 739-8528, Japan

²⁾ Faculty of Science, University of the Ryukyus, 1 Senbaru, Nishihara, Okinawa 903-0213, Japan

Abstract Based on the literature published between 1916 and 2012, a checklist is compiled for the following 46 nominal species and 1 unidentified species of three copepod families Dichelethiidae (1 nominal species in *Anthosoma*), Hatschekiidae (44 nominal species in *Hatschekia*, *Prohatschekia*, *Pseudocongericola*; 1 unidentified species in *Hatschekia*) and Pseudohatschekiidae (1 nominal species in *Pseudohatschekia*) from Japanese fishes. This checklist contains information for each copepod species regarding its host(s), attachment site, known geographical distribution in Japanese waters, and references.

Key words: bibliography, Copepoda, Dichelethiidae, fish parasites, Hatschekiidae, Pseudohatschekiidae